

○議長 横尾 武志君

6 番、田島議員の一般質問を許します。田島議員。

○議員 6 番 田島 憲道君

6 番、田島憲道です。

まずは、質問の取り下げからお願いします。三つ目の中央公園整備事業について。こちら、私の個人的な事情のため、次回、3 月にやらせていただきたいと思います。本当、すみません。入江課長、企画課長、次の機会に。勘弁してください。

では早速、まずは、ことしも最後を努めさせていただきます。8 年連続になります。

まず、この二つの、2 冊の新書があります。これは話題になっている作品なんですが、一つは岩手県元知事の増田寛也さんの「地方消滅」。これすごい帯が、おびただしい帯が書かれております。896 の市町村が消える前に何をすべきか。この私たちの芦屋町はこの中で、消滅する自治体に入っておるんですよ。ちなみにですね、近隣の 3 町は無事でありまして、この本の中で少子高齢化と言われて久しいであります、実は過疎地域では、少子高齢者減、高齢者も減っているんだぞ。子供も高齢者も減っているんだぞという、この地域のことを地方消滅とあらわしています。そしてもう一つはですね、藻谷浩介さんの「里山資本主義」。これは国土面積の 66% が森林という中で豊富な資源である山の木を徹底して活用しよう。これはですね、日本古来からの生きる知恵だという静かなちょっとムーブメントが起こりつつあっております。これ。新書大賞、ことしの第 1 位になっております。この二つの新書を読んで、ちょっと共感するものがあつたんで、今回私の一般質問の参考にもなっております。まだ読まれていない方は、正月休みにでも、ぜひ手にとっていただきたいと思います。

ではですね、1. 公共交通について。

最近 30 代の親しい家族が、町外に引っ越して行きました。家を建てるというので引っ越していったのですが、ことしに入って僕の周りでは 3 家族の流出です。4 年前の選挙からですね、相当な数の家族が芦屋町から出ていかれていまして、本当に残念なことなのです。この芦屋町はですね、自然に囲まれてすばらしい環境にあるのに、なぜこうも住民が流出していくのか。その最たる原因はバス交通、バス問題にあるようにしてならないんです。

①タウンバスと市営バスの利用状況及び経営状況をお尋ねします。

○議長 横尾 武志君

執行部の答弁を求めます。環境住宅課長。

○環境住宅課長 入江 真二君

それでは、タウンバスと市営バスの利用状況と経営状況ということで、初めに、北九州市営バスの利用状況、経営状況につきましては、市営バス全体での利用状況等は公表されておりますけれども、芦屋線のみでの情報というのは公表されておられません。この場でお答えできないことを、まずお断りさせていただきます。

平成 26 年第 4 回定例会（田島憲道議員一般質問）

それでは、芦屋タウンバスの利用状況及び経営状況について、お答えいたします。

タウンバスは、平成 17 年に西鉄バス北九州の芦屋―折尾線の廃止に伴い、芦屋から JR 遠賀川駅間を代替運行したもので、ことしで 10 年目となります。全国的にもバス利用者の減少、燃料の高騰等によりバス事業を取り巻く厳しい状況は今後も続くものと思っております。

平成 24 年 3 月に策定いたしました芦屋町地域公共交通確保維持計画には、基本方針を「町民の日常生活を支える地域公共交通サービスを持続的に提供していくために、町民の日常生活移動に即した効率的・効果的な地域公共交通を町民・事業者・行政が力を合わせてつくり、守り、育てる」としています。

芦屋タウンバスは、町内から遠賀川駅へ平日 68 便、土日祝 40 便運行しております。利用状況については、過去 5 年間の年平均利用者数は 9 万 1,614 人、1 日約 251 人が往復で利用されていることとなります。また収支については、運賃収入及び国の補助金を合わせた収入合計の 5 年間の年平均額が 2,606 万 1,000 円。運行に係る経費は 4,242 万 3,000 円。これを差引しますと 1,636 万 2,000 円の損益。運行経費に係る運賃収入の収支率は 61.4% となっております。

利用者数並びに運賃収入の近年の傾向は、平成 21、22 年度は、利用者数及び運賃収入は減少傾向でございました。しかし、平成 23 年度の運賃収入につきましては、前年度比約 7.3% の増。24 年度も 1.9% 増となっております。また、平成 25 年度には、平均 12% の運賃改定を実施したことにより、運賃収入は 2,877 万 9,000 円。このときに同時に、はまゆう団地―遠賀川駅線運行に伴う国からの補助金 81 万 8,000 円の収入があったことなどから、運賃収入及び収支率は増となっておりますけれども、利用者数は 9 万 2,699 人となっており、前年度比では、若干の減少となっております。しかし、これらの収入と運行経費の差額、損益額は 1,541 万 3,000 円となっておりますので、収支率 65.8% となっており、最近 3 年間の収支については、5 年間の平均を全て上回っている状況でございます。福岡県内では、政令市を除く 37 の市町村がコミュニティバスを運行しております。平成 24 年度の運賃収入と補助金の合計と運行経費で割り戻した収支率で比較しますと、37 市町村の平均収支率は 34.0%、市町村負担額の平均は、2,316 万 5,000 円となっております。

市町村が運行するコミュニティバスは、不採算による撤退路線を引き継いだものが多く、ほとんどの市町村が赤字運行となっております。その赤字額は、年々市町村の財政を圧迫している状況でございます。

芦屋タウンバスの収支率、町負担額を比較しますと、タウンバスの収支率については県内でもトップクラスとなっており、町負担額も平均以下となっております。以上が利用状況と経営状況についての回答でございます。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 6 番 田島 憲道君

そもそもですね、タウンバスについては、もともと西鉄がやっていたわけでしょ。あの西鉄が撤退した路

線なんですよ。全国でも西鉄の営業力はトップクラスだと思います。そういったところが撤退したということ、芦屋町、同じことやっても、やっぱり赤字になるのは当たり前なんですよ。

市営バスに関してはですね、サイトで最新データを拾えなかったんですが、平成 20 年度の当時のこの収支状況がありまして、98 路線あるんですね。その 24 線が黒字なんです。その芦屋路線は黒字に色づけされています。多分、今でも変わらない状況だと思うんですよ。なぜ芦屋路線が黒字と言いきれるのかというと、それは、花野路や青葉台を經由しているんですね。すごい遠回りをして折尾駅に着きます。約 40 分かかっているんですよ。高校生の下校時は、これ、大変折尾駅が混雑して、乗りきれなかったら、次のバスで 1 時間待たされたりするんですね。これであの、元気のいい高校生は自転車のほうが早いと。自転車で通ったりしているんですね。

よそではですね、この、本当は利用者の少ない土曜日の午前中なんかはですね、芦屋基地の入校学生があふれ出る、遊びに出るんですよ。これもまた積み残しが出ているくらい乗ってくるものだから、自衛隊のリーダーの人がタクシーに乗れとか言って振り分けたりしてですね、そんな中で、同じ市営バスを利用しているのに、北九州市民と町民との間でサービスも違います。それは当然市民じゃないから、当然と言うかも知れませんが、いろいろな面で町に主導権がないように感じているんですよ。町民のためというよりか、バス会社のために運行しているのではないかと、そんなことを思ってしまいまして、資料をちょっと用意しました。

いいですか、資料を見てもらって。この中の②の各バスのサービスの違いというところをご覧ください。市営バス、これ芦屋町民、北九州市民の比較ですね。北九州市民なら障害者に関しては無料であったりするんですが、芦屋町民の場合は割引がなかったりとか、身体的なものであれば半額とかいう、こういうサービスの違いもあります。そしてですね、①の遠賀郡のバスの運賃比較をちょっとご覧ください。これ、通学定期と運賃を特に見ていただきたいんですよ。運賃、定期も芦屋町は突出していますよね。遠賀、水巻、岡垣のよそを見てもですね、これはですね、芦屋町は遠い距離があるからというのは理由にならないんですよ。なぜかという岡垣町は波津までが 8 キロあって、これは自衛隊前から遠賀川駅までの距離があるんですよ。そこを 150 円で、均一でやっているんですよ。これはやっぱり西鉄バスが競争力でしょうね。企業の競争間でこういうふうには 150 円でやってくれております。ここでですね、定期がなんぼ売れているか、そういったことは僕は聞きません。なぜなら、見てください。通学定期に 1 万円かかるとなると、これ、車にガソリン入れたほうがいいんですよ。まして、今土曜日が休みなもんだから、週 5 日の通学なんですよ。僕の友人は、高校生の 2 人の子供を 6 時台と 7 時台にせっせと送っているんですよ。これは甘い親やなと思うけど、車のガソリンを入れたほうが財布に優しいと言うんですよ。それで、週末は家族で旅行に行ったほうが良いと言うんで、行きは送ってですね、帰りはバス。その逆もあるんですね。だから、余り定期の需要はないようなんですよ。定期代に補助金を出すような施策、考えもありますが、これはちょっと余り効果がないんじゃないかとは思っています。逆にですね、回数券、芦屋町のそのプレミアム商品券ですか。それで回数券

平成 26 年第 4 回定例会（田島憲道議員一般質問）

が買えたりするほうが、ありがたいのではないかと僕は思います。

では次の質問②タウンバスについては、今後どのような改善を検討していくのか町の考えをお尋ねします。

○議長 横尾 武志君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 入江 真二君

それではタウンバスの改善ということで、これは公共交通が抱える改善策としては、一つにその地域に必要な公共交通サービスの確保。二つ目に公共交通の利用促進。3点目には公共交通の収支の改善、この三つの視点で検討を行うことが必要と考えております。

現在、タウンバスは先程も申しましたけれども、平日68便、土日祝40便を運行しておりますので、今後もこの便数を確保維持して、利用促進策を実施することで利用者の維持、増加を図りたいと考えております。

今までに実施したタウンバスに係る利用促進対策としましては、平成25年4月に市営バスのはまゆう団地路線の廃止に伴うタウンバスの延長に伴い、高浜・緑ヶ丘地区へ乗り入れた路線を新設しております。あわせてJR遠賀川駅での接続を考慮したダイヤを組むことにより、利用者への利便性を向上しております。ほかにも割引率の高い23枚綴りの回数券の発売、はまゆう群生地とはまゆう公園のラッピングバスの運行、幼稚園児の絵の車内展示、安全対策としてドライブレコーダーの設置、それと遠賀川駅前にありますサービスセンターでの定期券、回数券の販売等を実施しております。

また、昨年度から福岡県と九州産業大学と連携して、「タウンバスの利用促進に向けたITの利活用」としまして、タブレット端末を使用したタウンバスの利用者数の利用者数調査、それと利用者の属性等の調査を行っております。この調査実施前は月ごとの利用者数しか把握できておりませんでした。この調査により利用者の多いバス停、時間帯ごとの利用者、曜日ごとの利用者数等や利用目的等が明らかになり、より利用者ニーズに沿ったダイヤ改正等が可能になると考えております。

このタブレット調査に際しては、職員がタウンバスに乗り込み、調査の目的やタブレットの操作の方法等を乗客の皆様にご説明を行っております。タウンバスに直接乗り込むことで、タウンバスに対する不満点や要望等も直接耳にすることができました。また、タウンバスの運転手の方ともミーティング等を行い、運行の実態や問題点についての情報交換等も行っております。

今年度も8月25日から9月21日までの4週間、タブレット調査を実施し、あわせてタウンバスに対する自由意見というものをその4週間の間に受け付けておりますが、合計で4名のお客様から意見をいただいております。内容は、一つは岡垣イオン行きのバス路線を新設してほしい。2点目は土休祝日の遠賀川駅行きの最終便の時間を延長してほしい。3点目は遠賀川駅行きの朝7時台のダイヤについて配慮してほしい。4点目はタウンバスがあつてとても便利だから、今後も継続運行してくださいというような意見をいただいております。この4名の方の自由意見から見ても、公共交通に対するニーズは多種多様であり、また多くの

平成 26 年第 4 回定例会（田島憲道議員一般質問）

利用者の中でも意見として上がっていない声もほかに多数あると考えております。町では、これらの意向結果等をもとに、短期的な改善としては、JR遠賀川駅での接続を優先したダイヤを組むことで、利用者の利便性を上げ、利用満足度を向上させることができるものと考えております。長期的な改善としては、芦屋中央病院の移転に伴う運行路線の見直しについての検討が必要と考えております。

これらの改善案については、地域の公共交通の関係者や学識経験者等から組織される芦屋町地域公共交通協議会の中で、芦屋町の特性や実情に応じた公共交通のあり方について協議を行い、決定されることとなります。タウンバスの改善につきましては、多くの方からご意見をいただき、よりよい改善策を検討したいと考えております。

タウンバスに限らず、全国的にも公共交通利用者が減少している現状では、公共交通が本当に必要な利用者の声を聞いて、見直しを繰り返すことが地域に合ったよりよい公共交通になると考えておりますので、今後も利用者の声、地域の方の声にしっかり耳を傾けまして、地域の方から愛されるタウンバスにしたいと考えております。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 6番 田島 憲道君

九産大との産学官の連携、大いに結構であります。利用者促進のために、次なる施策に役立てていただきたいと思っております。しかしですね、いろいろ指摘したいと思っております。

先日、僕は30年ぶりにバスに乗って、遠賀川駅でJRに乗り継ぎ、天神に行ってきました。しかと遊んで帰ってきて、帰りは何も考えずに電車に飛び乗ったんですよ。夜10時半過ぎでした。おりて気づいたんですよ。タウンバスの最終がもう10時26分で出しまっとなんです。これ、実に早いですよ。しかも、この時間帯とか、7時以降1時間に1本というような割合で、タクシーに乗ると2,200円ぐらいかかりますよね。これで本買ったほうが、僕本が好きだからですね、本買ったほうがいいわと思って、機転をきかして、電車が来たので小倉行きに乗って、折尾まで行きました。今度、市営の最終は、23時38分なんですよ。この寒い中、バスが来るのをひたすら待ったんですよ。これ、僕が30年前、高校生のころ、毎日のようにこんな思いをしてたのを思い出したんですね。僕、そのころ部活をやってまして、練習が9時半に終わって、それから電車に乗って折尾駅に着くのが10時30分なんですよ。23時過ぎのバスをひたすら待つわけですよ。冬はもう吹きさらしのバス停で寒いんですよ。耳にもう寒風が突き刺さるんですね。今のようですね、お父さんやお母さんが迎えに来てくれる時代ではなかったし、今、中学校の正門前、部活の後なんか、すごいですよね。お迎えの車が。本当すごいですよ、うちのおやじはもう、5時で終わる自衛官だったもんだから、もう酒飲んでゴンゴン寝とるし、おふくろは車の免許がないでしょ。そんな状況が思いめぐってですね、今でも毎日こんな思いをして通勤している社会人や学生がいるんだと思い、そしてまた聞きまして、今回この一般質問をやろうと思いました。

指摘をさせていただきますが、さっきのタウンバスはですね、土日の最終便がまだ早いんですよ。21時ちょうどですよ、課長。これは課長になってから、前は7時台だったって聞いています。課長になってから改善してくれて、21時になったと。これですね、天神で遊んどっても、19時過ぎにはもう、飲んででも、友達と飲んででも席を立たなきゃいけないんですよ。二次会どころか、一次会も途中で席を立たなきゃいけない時間です。今ですね、北九州方面よりかは、こっち側に行く人のほうが多いんですよ。宗像とか福岡まで仕事に行っている人とか。これは同じ職種でも、イオンの中の店員さん、アルバイト、パートでもですね、時給が北九州と福岡とじゃ200円違うんですよ。こっちのほうに向いているんですよ。僕ら30代、20代で就職うまくできなかった人たちは派遣とかそういうので、そういう雇用条件の中、北九州行くよりか宗像、福岡方面に出るという事実があるんですよ。それなのにですね、9時が最終というのは、これはもうちょっと考えたほうがいいんじゃないかと思います。

それとですね、新水巻病院へ行くのに、車がない人、大変苦勞されてとんですよ。以前は西鉄の頃末經由がありました。今はもうないでしょう。今ほとんどの救急車、新水巻病院に向かうんですよ。おじいちゃんが入院になって、おばあちゃんがですね、せっせと着がえを持って行くんですけど、タウンバスに乗って遠賀川駅まで行って、水巻で降りて、新水巻病院まで歩いて行くんですね。本当大変なんですね。お年寄りの人たちがタクシーを使えないという状況を理解してあげたいと思います。

これらの問題をですね、解消するには、とにかく帰りの便のですね、本数をせめて1時間2便にするなどの増便をしたほうがいいんじゃないかと僕は思います。先ほども言われていますけど、JRの接続に合わせた運行。JRはよく遅れます。ちょっとの間くらい、タウンバスの運ちゃんも待ってあげたらいいのと思うんですよ。僕のさっきのケースもそうだったんですよ。時間が来ればサーっとバスは行ってしまいます。そしてですね、JRの最終の便には、やはり合わせてあげないといけないと思うんですよ。12時くらいまでありますよね。

そこでですね、結論なんですけど、将来的にはですね、オンデマンド交通、オンデマンドバス、オンデマンドタクシーこれしかないのではないかと思います。以前はですね、今町もやっている、この以前の主流はコミュニティバスなんですよ。しかし今はIT技術の発達により、進化により、乗りたいときに使いたいときに利用するというオンデマンドという発想が全国的にも、特に過疎地域では積極的に取り組んで、実施しているところもあるし、試験運行やっているところもあります。また、地域それぞれの特徴、特性があるので、その地域にあった運行を研究したらいいと思います。

例えば、競艇場は実際にピストンで走らせていますし、ちょっと自衛隊まで伸ばして、走らせればいいんじゃないかと。あれもデマンドなんですよ。無料じゃなくていいんですよ。300円均一とかで自衛隊まで、自衛隊バス停前まで走らせると。そういったことをですね、ぜひ検討されてください。タウンバスの運行ダイヤもですね、客のニーズに合わせて、今まで以上の改正と先ほどのオンデマンド交通の研究に、芦屋町も取り組んでいただきたいと思います。

平成 26 年第 4 回定例会（田島憲道議員一般質問）

続いて②のマリンテラスについて。

僕はマリンテラスについては、何度質問するでしょうか。いつも飯がまずい、営業回りをしっかりやっているのかとか、担当課はちゃんとマネージメントをしているのかとかやってきておりますが、きょうは違った視点で質問していきたいと思います。

①現在の指定管理者になり 4 年になりますが、前の管理者からの利用者の状況（宿泊数、日帰りなどの）経営状況はどのようになっているのか。お尋ねします。

○議長 横尾 武志君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 松尾 徳昭君

件名 2、要旨 1 についてお答えいたします。

21 年から 25 年までの利用状況及び経営状況についてお答えしたいと思います。21 年、22 年度は、前の指定管理者。23 年から 25 年度は、現指定管理者となります。利用状況の宿泊数については、21 年 2 万 4,067 人。22 年 2 万 1,408 人。23 年 1 万 9,131 人。24 年 2 万 5,133 人。25 年 1 万 8,259 人です。

日帰りにつきましては、21 年 7 万 1,283 人。22 年 5 万 9,812 人。23 年 6 万 4,132 人。24 年 6 万 7,830 人。25 年 6 万 1,477 人です。

宿泊数につきましては、21 年と 25 年を比較しますと約 24% の減、日帰りにつきましては、約 15% の減となっております。

続きまして経営状況、収益についてお答えいたします。21 年につきましてはプラス 345 万円。22 年 マイナス 1,400 万円。23 年 マイナス 2,900 万。24 年 マイナス 1,500 万。25 年 マイナス 2,200 万です。

現指定管理者になって、累計でマイナスの 6,600 万の経営赤字という形にはなるかと思えます。経営状況がなかなか、今の現指定管理者になって、うまくいっていないのが現状ではないかというふうになるかと思えます。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 6 番 田島 憲道君

経営状況がうまくいっていないということですが、まあ見てわかりますけど、累積マイナス 6,600 万円の赤字ということです。驚いております。

2 回目の質問に行きます。21 年度売り上げの金額でありましたかね、今、推移が。改めて、じゃあ指定管理料のことについて聞きます。年間の家賃、改めて聞きますが、この 4 月からの消費税が上がっておりま

平成 26 年第 4 回定例会（田島憲道議員一般質問）

すが、それを含めた4月からの納入金はいくらでしょうか。前の業者のころ、21年度の指定管理料、21年度は基準になるんですか、これ。2009年ですね。21年度の指定管理料はいくらのかお尋ねします。

○議長 横尾 武志君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 松尾 徳昭君

前の指定管理者と現指定管理者という形になるかと思えます。前の指定管理者については18年から22年まで指定管理をしていただいております、指定管理料につきましては、7,000万に消費税という形になりますので、7,350万になります。現指定管理者につきましては、23年から行っていただいておりますので、6,000万円に消費税という形で、4月からは消費税8%にあがっておりますので、6,480万円。前年度までは消費税の5%分という形の中で指定管理料を納めていただいております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 6番 田島 憲道君

大体、商売人は昔から、家賃の10倍売り上げがなければ赤字になると単純に言われております。僕なんかそうやって教わったんですが。ということは売り上げが6億以上なければ赤字という、僕はそういう認識で持っているんですけど。自分たちですね、6,000万払えるというプロポーザルしたわけですから、それは払わなというのは真つ当な意見なんです、しかし、このわずか30部屋しかないんですよ。年商4億から5億を目標にやっていくとなると、毎日の売り上げが150万なんですよ。これどういった、僕は異常とは思いますが。そしてあの我々には毎年1億近くの債務がありますよね。これ、支払い完了するまであと何年ありますか。何年ありましたかね。

○議長 横尾 武志君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 松尾 徳昭君

支払いにつきましては、31年までとなっておりますので、あと約5年ぐらいの支払いは残っているかという形になるかと思えます。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 6番 田島 憲道君

納入金が多いほど、こちら、私たちはありがたいわけですが、果たしてこの6,000万という家賃がこの程度の施設で、適正な家賃と言えるのだろうか、私は思うんですよ。例えばですね、小倉のリーガロイ

ヤルホテル。ここはディベロッパーの所有で、部屋室が 200 室あります。この家賃がいくらなのか、皆さんご存知ですか。ここはですね、5,000 万だそうです。5,000 万。僕はここで披露宴をやったんですが、まあここ前日までに、全額 600 万払えとか言ったりする、本当心がない大阪商人の経営者なんですけど、あの大ホテルと比較してですね、あちらは 500 名を招待しての披露宴ができる施設なんです。それ以上の家賃ということ、皆さんも理解して頂きたいと思っています。

そこで、家賃を払う立場で物を考えてみたらどうだろうかと僕は思います。例えば施設に不具合があったらどうしますか。この寒い中、暖房がきかないとお客さんから苦情があつてます。とても寒いとお客さんが怒ってます。それで、支配人はヒーターを買いに走っています。寒いと言われれば仕方ないから、店側も必要な経費として購入します。しかし、夏も実は暑い、逆に、暑いんだと苦情があつて、扇風機だけじゃどうにもならんのですよね。30 部屋のうちに、個別に空調があるのは、わずか 2 部屋なんです。残りは集中方式という、ボイラーで 24 時間焚きっぱなしの設備なんです。これは、お客が一人しか泊まってなくても、同じようにランニングコストが莫大にかかります。

ちなみに、ここにですね、平成 21 年度を基準とした、休暇村からの電気、水道、ガス、灯油の使用量及び経費の一覧が手元にあるんですが、21 年度と 24 年度が、光熱費の使用量が類似しています。客がおろうがなかろうが、水道、電気、灯油はほぼ変わらないんですね。ただ、ガスだけは、お客さんが多いほどガス代はかかるから、21 年から比べると少し安いんですよ。ほかのその合計ですね、電気、水道、灯油の合計を見ますと、1,000 万円ほどですね、前の経営者のときよりもかかっているんですね。これは御承知のとおり、原発問題による電気料の値上げや円安による燃料費の高騰なんです。これに関しては、不可抗力な事態だと僕は思います。

またこのことで、経費を抑えることによって、せっかくの料理の食材や人件費に手をつけるとサービスの低下につながるわけですよ。

また、10 月から最近、お風呂の営業時間と料金が変わってですね、510 円のお風呂の料金が今 620 円になっています。で、毎週水曜日午後 2 時から営業なんです。それが水曜日と金曜日とふえました。これは恐らく、お風呂のメンテとか言ってますけど、経費節減のためではないかと思えます。

最近のマリンテラスは、よく僕は動いてる、よくやってるんじゃないかと思うんですよ。売り上げが下がった原因は、泊まり客の激減ですよ。広島や岡山から修学旅行が来ていました。それはもう、スペースワールドに行く目的で芦屋町に泊まっていたんですけど、これがユニバーサルスタジオへと切りかえているんですよ。これが主要要素で修学旅行が減っていると。しかし、本当スペースワールドと、スペワと USJ と比べたら、これはもう比べ物にはなりません、本当。修学旅行が減った分ですね、HP で旅行サイトやあとは旅行会社の広告にですね、マリンテラスは今、力を入れていまして、地元の人間を営業職に配置がえをしております。その方が、芦屋基地の宴会やら、芦屋基地にどンドン入って行ってですね、出張組みの素泊まりなどに営業をかけています。それがビジネス利用につながっていると思います。

また、この11月は航空祭もあって、売り上げが大変よかったということです。そしてですね、私たち、私の店も含めてですね、地元飲食店の有志たちで勉強会を開いております。こういったチラシを年に4回発行しています。これはですね、最初は4店舗で始めたんですよ。ここにマリテラスも参加してくれています。5月から参加してくれたんですが、するとですね、参加店が10店舗にふえて、あと16店舗の Snackbar さんの広告をいただいております。こういうことに積極的にまた参加してくれておまして、マリテラスのHPだけの企画なんですけど、ここにある掲載店とですね、コラボいたしまして、素泊まりで泊まったお客さんがこの掲載店で、飲食店で食事ができるという、これをやっているんですよ。そこまで送迎するんですね。お客はですね、地元の名店で、人気店で、旬なものそして好きなものを自由に食べれるということなんです。これはですね、居酒屋メニューがないと。居酒屋メニュー、から揚げとかそういうものをつくってこないかという宿泊客からの要望により実現をしております。

これは、実は関西の城崎温泉の旅館街で地元の商店街で同じようなことをやっています、ここは、国からの補助金で電算システムをつくっております。部屋のIDカードで各支払いができるんですよ。各商店街でお土産を買ったりとかアクセサリを買ったりとか、それでできるんですよ。支払いは全部ホテルで精算してます。観光客は、浴衣のまま街中に外出できるということで、すごく好評になっておまして、それを参考にしてですね、私たち各飲食店での会計もマリテラスで一括で支払えるようにしました。これはですね、システムとか入れてません。FAXを利用しての伝票の確認で、マリテラスでカードで払ってもらうと。カード払いはですね、町内の飲食店ではほとんどやっていません。なぜかという、手数料が高いんですよ。支払いもですね、翌月払いとかになりますから、町内の飲食店はもう現金大好きだから、全くそういうカードに関しては、今まで手つかずでした。そういう不便さをですね、今、マリテラスが翌日には支払いをしてくれるということで、なかなかいいと。これ、お客様目線の企画ではないかと思っております。これはですね、5月の連休後から始めて、大体月10組程度の利用なんですけど、これからじゃないかと思えます。自衛官の出張組や素泊まり客などに対してですね、本当期待できるコラボではないかと思っております。

続いて②の大型事業の一つで、国民宿舎のリニューアルが上げられていますが、どのようなことが検討されておるでしょうか。お尋ねします。

○議長 横尾 武志君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 松尾 徳昭君

マリテラスにつきましては、平成11年度にリニューアルオープンして、約15年が経過をしています。その間の主な改修工事としては、平成21年に2階～5階のホール・廊下壁のクロスの変更、22年は浴槽の整備工事、エレベーター改修工事、23年度につきましては3階～5階部分の廊下・床改修工事、25年度は客室、宴会場部分の改修、厨房、バックヤードの空調換気設備の取り替え、ポンプユニット類の

更新等の内部改修工事を行っております。

今後の改修予定といたしましては、給排水衛生設備、給水管や排水管等の整備、客室・ホール等の空調換気設備、あと外壁・防水工事等が考えられます。老朽化の状況によっては、整備を進めていかななくてはならないのではないかというふうに考えています。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 6 番 田島 憲道君

この施設に関しては言いたいことが山ほどあるんですけど、ことし始めにリニューアル工事を 1 カ月半かけてやりました。各部屋ですね、壁紙や厨房施設の配管関係だったと思いますが、毎日来るサウナやお風呂を利用する常連客たちからはですね、「どこがリニューアルしたんだろう。わからん。」と言うんですよ。サウナ客がいつも要望しているんですが、室内にテレビをつけてくれと。それもまあかなわなかったし、天井にひびが入っておりますけど、それもそのままなんですよ。これが民間のホテルならリニューアル休館となると、目につくところは、とりあえずきれいにすると思うんですよ。またテレビの取り付けなんかですね、耐熱ガラスはめ込んで、まあ大きいテレビじゃなくていいんですよ、狭いサウナですから。ちっちゃいのでいいですよ。3 万もかからんのじゃないかと思うんですよ、そのテレビ代は。だから工事費もそんなにかからんと思うし、常連客の大工がブツブツ言っているんですけど、担当課に聞くと設計変更しないといけんとか、恐ろしく工事費がかかるとかいう返事だったんですよ。

それとですね、ボイラーについてですが、これ 15 年たちますね。大体、償却期間は 15 年。これからメンテナンスにお金がかかってきます。ボイラー会社の矢崎総業ですかね。これ、特殊ボイラーだから、部品がー々高いんですよ。これに関しては、なぜ灯油を使っておるのかなと思うんですよ。重油のほうが安いんじゃないかと思えますし、今ですね、木材チップ。このボイラーに切りかえるところが出てきています。福岡県もこの助成に大変力を入れていまして、工事を含めた設置費用に半分の補助金を出すんですよ。設置後の木材のチップの購入にも助成金が出ます。

私はですね、先日、原鶴温泉の泰泉閣、ここがですね、この 4 月に、このボイラーを設置してまして、見学に行ってきた。行ったその数日後にですね、県からも設置後の状況を見に来るということで、視察が入るんだと担当者が言っていたんですが、これ、導入後の燃料の削減率は本当、見事なんですよ。二、三年で投資した費用が回収できると言っております。木材チップはですね、価格が変動しないんですよ。この破片、間伐材やらですね、破片の木材を再利用することで、林業の保護、国土保全の育成になると施設長が話していました。町内でも、松枯れの木やら、あと間伐材などが出ればですね、魚見公園や城山などで。そういうのもチップにしてぶち込めばいいんじゃないかと思うんですよ。

空調がですね、先ほども話しましたが、全館一斉方式です。今後、個別方式に改修する方向ということ

平成 26 年第 4 回定例会（田島憲道議員一般質問）

ですが、これは一も早くやらないといけないと思うんです。個別にすればですね、24時間つけっぱなしじゃなくてもいいわけですから、大分コスト削減になると思います。そのときはですね、このチップボイラー検討の価値もある話ではないかと思います。家賃を6,000万も払ってもらっているんですから、上から目線の経営会議もそろそろ終わりにして、築16年の物件で、僕はこれは欠陥だらけの建物だと思っておりますので、その相手方に対してそれに見合う対応もそろそろ必要でないかと思います。

では、最後の質問です。残りの指定期間は、指定管理の期間はあと1年だったと思いますが、次の指定管理は、どのように公募され、いつ頃から募集を始めますか。公募されるでいいんですかね。お願いします。

○議長 横尾 武志君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 松尾 徳昭君

基本的に、今言われました残り1年という形になっております。基本的には、前回と同じような形で、地域づくり課としては一般公募という形の中で進めていきたいというふうに思っております。時期的には4月ぐらいから公募をするような形で、今から内部での準備を進めていきたいというふうには考えております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 6番 田島 憲道君

マリンテラスはですね、大事な観光資源だと思うんですよ。これはもう皆が力を合わせて、今の赤字を克服するか、経営の立て直しを図っていかねばならないと思います。町長、最後にマリンテラスについて、あと、公共バスについても考えをお聞かせください。

○議長 横尾 武志君

町長。

○町長 波多野茂丸君

田島君からるる、公共交通それからマリンテラスについていろいろなご提案を、ご提言、ご叱責と受けとめております。公共交通につきましては、いろいろなニーズがございますので、そのニーズにあった形でしたいのはやまやま。やはり税を投入しますので、効率を考えます。その辺も含めまして、将来、芦屋の公共交通どうあるべきかということは、今後どんどん、一つ決めたからそれをずっと継続するのではなく、毎年変えるのか、二、三年ごとに変えるのか。いろいろなニーズに沿ってやらなければならないと認識しております。デマンド交通のことも言われました。その件につきましても、いろいろな私も本を読ませていただいたり、研修会でそういう話もありましたが、やはりいろいろな地域性というのがやっぱり非常にありまして、芦屋がどうなのかなど。しかし芦屋で早く言えば、タクシー事業者の方の民業圧迫する部分も出てくるのかなとか、いろいろな思いを込めて研修会に参加させていただいたわけでございます。

それから、マリントラスは議員御承知のとおり、芦屋町にとりまして唯一の大きな宿泊施設であり、それから私もよくマリントラスに昼利用させていただくんですが、お客さん多いですね、昼結構。まあ芦屋で一番、今不足しているのは、芦屋によく、土日だけでなく平日にもご夫婦で、グループでよくおいでになれる方がいらっしゃるんですが、いつも耳にするのが、食べる場所がないというところをよく聞くわけがあります。あそこのととや、それからマリントラス、かねやすさんですかね、等々海岸線にあるんですが、それから海の駅もあります。いまいち周知されていない部分もあるのかなと思っております。芦屋の大きな観光立町を唱える芦屋町といたしましても、このマリントラスの存在は大きなものであるわけでございます。

議員からいろいろ今、あの経営内容についてご指摘がございました。経営はまず、できたときに、国民休暇村サービスがやりました。その次にマーチャント・バンカーズが公募いたしまして、プレゼン方式ですよ。でやって、そのとき契約するわけですよ。事業者というのは、やはり、いろいろやっぱり将来の見通し等々のいろいろな採算というか、その辺を計算してプレゼンに当然臨まれておるのであるかと思えます。このマーチャント・バンカーズのときも、5社か6社ぐらいあったと思うわけでありまして。それはそれはすばらしい提言であったわけでありまして。これはあの一番最初、一番の、指定管理料が一番高いところではなかったと思えます。2番目か3番目だったのではないかと思います。プレゼンが余りにもすばらしかったんで、ここに決まったというふうに認識しております。それが、いろいろな諸事情があったのでしょう。それと、私が一番印象に残っておるのは、引き継ぎがうまくできてなかったということ、一番印象に残っているわけでありまして。

それを考えたときに、指定管理ということに対しての、こういう事業に指定管理が果たして正しいのかどうかということに、これは個人的な意見ですが、感じたんですが、やはりノウハウ、国民休暇村は国民休暇村の自分のところのノウハウ。自分のところがやはり5年間というもの、蓄積したもの。それを競争に負けて、相手に教えたくないというような心理が働くのかどうか知りませんが、その辺が次の、あと1年あるわけでございますが、この公募は必ずしなくちゃいけないと思えます。公募する中でその辺を考えなくちゃいけないし、それからこういう経済状況、いろいろな状況の中で、今議員ご指摘ございましたように、物価の高騰だとか、いろいろな景気の動向等勘案して、その契約書の中に1項入れるとかですね、というような工夫もいるのではないかと考えております。

やはり経営利益が上がらなければ、やはりそこに働いている方の賃金にも影響する。待遇にも影響する。強いては、一番大事なお客さんのサービスに影響するということで、議員言われるとおりでと思っております。議員のご提言に対しましては、よく内部検討をする必要があるのではないかと考えております。交通問題も含めまして、マリントラスの問題、適切なご提言をいただきまして、ありがとうございました。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

平成 26 年第 4 回定例会（田島憲道議員一般質問）

○議員 6 番 田島 憲道君

以上で私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長 横尾 武志君

以上で、田島議員の一般質問は終わりました。